

シンポジウムS1 日本列島人の成立～縄文から弥生へ～

11月3日 A会場 14:00-15:40

オーガナイザー：斎藤 成也（遺伝研・集団遺伝）

日本列島には何度も渡来の波があった。採集狩猟中心だった先住民である縄文人は、水田稲作農耕をもたらしたいわゆる弥生系渡来人と混血し、その後もさまざまな地域からの渡来の波があり、現在の日本列島人が成立した。本シンポジウムでは、縄文時代人と弥生時代人および彼らの文化について議論する。藤尾慎一郎は考古学の立場から、採集狩猟民と水田稲作民の違いを、生業以外の文化要素を中心に述べる。篠田謙一は、縄文人と弥生人を中心とした古代人のゲノムデータから、それぞれの集団の遺伝的な性格や両者の関係について、縄文人の地域差などを考察する。斎藤成也は、現代日本列島中央部人の核ゲノムデータから発見された内なる二重構造の生じた歴史について論じる。

S1-1 紀元前10世紀前後の朝鮮半島南部からの文化拡散／藤尾 慎一郎（歴史博）

S1-2 古代人のゲノムから／篠田 謙一（科博・人類）

S1-3 日本列島中央部における「うちなる二重構造」／斎藤 成也（遺伝研・集団遺伝）